NIIGATA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

NIIT広報

新潟工科大学 広報誌

2004 VOL.5 7.1

おかげさまで10周年

—創立10周年記念式典を挙行—

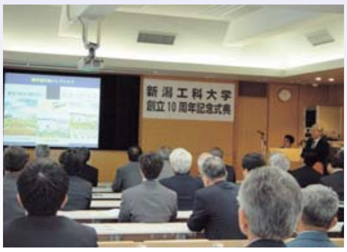
丹野学長の挨拶

永井淳夫理事長

古泉肇産学交流会会長

平山征夫知事（代理：関根洋祐出納長）

西川正純市長


設立当時の様子を紹介

創立10周年記念式典が開学記念日の6月5日（土）、本学の大講義室で挙行されました。当日は新潟県、柏崎市、新潟工科大学産学交流会など、大学設立にご尽力いただいた関係者をはじめ、旧教職員など多数のご来賓に参列いただき、盛大な式典となりました。

式のはじめに、永井淳夫理事長と丹野学長が挨拶し、永井理事長は「10年前のキャンパス造成時に植樹した木々が着実に成長しているのと同様、本学も歴史を刻みつつ着実に成長している。今後も皆様方のご期待に添えるよう努力したい」と、丹野学長は「大学の使命は人材育成と研究開発にある。今後とも人間性豊かな創造力のある技術者養成に努力し、併せて先端技術の開発に励み、産学連携を活発に行い、地域社会に親しまれる大学として社会に貢献したい」とそれぞれ述べました。

続いて、平山征夫新潟県知事（代理：関根洋祐出納長）、西川正純柏崎市長、古泉肇産学交流会会長から祝辞をいただきました。

最後は、産学交流会と後援会から記念品が贈呈され、大学から感謝状が授与されました。なお、式典に先立ち、地濃茂雄副学長から大学設立より現在までのなつかしい映像が紹介されました。

記念品は次のとおりです。産学交流会：原田泰治画伯のピエゾグラフ「梅咲く頃」「ジャカランダの丘」の絵画2点、後援会：大学銘板一式

〔関連URL　http://www.niit.ac.jp/news/2004/10thyear.htm〕

CONTENTS

1　創立10周年記念式典
2　大学開放・科学の祭典
3　工科大祭賑わう
　工科大祭実行委員がBSNラジオに出演
4　蓮池薫先生が講演
　平成15年度卒業式・修了式を行いました
5　平成16年度入学式を挙行
　スポーツ大会で熱戦を展開
6　平成15年度合同会社説明会
　平成15年度卒業生就職状況
7　卒業生の職場を訪ねて⑤
8　ロボカップレスキューで準優勝
9　第33回北陸信越支部学生員卒業研究発表会に参加してみて
10　建築学科、施主も感激の『住宅設計コンペ』開催！
11　無料スクールバスの運行始まる
　平成16年度春の叙勲の受章について
　新任教員のお知らせ
12　BSNラジオで地濃副学長の原稿を紹介中
　平成16年度公開講座
　オープンキャンパスのご案内

大学開放・科学の祭典・工科大祭賑わう

創立10周年を記念した大学開放、第9回工科大祭、第3回科学の祭典in柏崎刈羽が、6月5日（土）と6日（日）に行われました。例年より早い梅雨入り（7日）の影響を受けることなく、2日間の来場者数は延べ2,800人に上る大盛況となりました。

機械制御システム工学科・吉本研究室

情報電子工学科・田村研究室

物質生物システム工学科・日下部研究室

建築学科・飯野研究室

〈大学開放〉

日頃の研究成果を地域に開放することを目的として実施しました。小学生には、ロボットやパソコンの研究室が人気を集めていました。各学科のテーマは次のとおりでした。

＊ 機械制御システム工学科：「人と機械の新しい関係について考える！」
＊ 情報電子工学科：「身近な情報電子工学」
＊ 物質生物システム工学科：「化学と生物とシステムで明日を拓こう」
＊ 建築学科：「生命ある建築とまち」

〔関連URL　http://www.niit.ac.jp/news/2004/kaiho.htm〕

〈科学の祭典〉

柏崎・刈羽地域の小学生に科学を身近に感じてもらおうと、市立教育センターが主催し、本学が共催、会場の提供を行っています。連日多くの家族連れが訪れ「ー190℃の世界」や「きらきら万華鏡」などのブースで実験を楽しみました。

実験ブースには、本学の穂積秀雄教授（建築学科）の「燃料電池・木炭電池」や竹園恵助教授（物質生物システム工学科）の「色いろイクラボトル」もあり、研究室の学生は子供たちへの指導に追われていましたが、一方で生き生きとしているようにも見えました。

〔関連URL　http://www.niit.ac.jp/news/2004/kagaku1.htm〕

ー190℃の世界

きらきら万華鏡

燃料電池・木炭電池

色いろイクラボトル

青空の下で昼食

軽音部ライブ

ビンゴ大会

〈工科大祭〉

実行委員が会場案内

大勢の来場者と好天に恵まれたことで、飲食関係の模擬店は売り切れが続出。うれしい悲鳴となりました。また、新進気鋭の漫才コンビ、飛石連休とハリガネロックを迎えてのお笑いライブは、講堂に詰め掛けた300人を笑いの渦に包んでいました。

ブラスバンドジャズライブ

○×クイズ

満員となったお笑いライブ

模擬店に長蛇の列

〔関連URL　http://www.niit.ac.jp/news/2004/kokadaisai.htm〕

工科大祭実行委員がＢＳＮラジオに出演

創立10周年記念事業の一環として、ＢＳＮ（新潟放送）ラジオの人気番組「ミュージックポスト」に学長、副学長はじめ、教職員、卒業生、学生ほか関係者が、4月から6月まで16回にわたり出演しました。

このうち5月24日（月）には、工科大祭のＰＲのため実行委員長の上野裕子さん（物質生物システム工学科3年）とイベント担当の山本卓さん（同）が、工科大祭担当教員の小野寺正幸助教授とともに出演しました。前日までは緊張していた2人ですが、本番では大倉修吾さんの鋭いツッコミにも動じず、堂々と受け答えしていました。

蓮池薫先生が講演

本学で朝鮮語の非常勤講師を務める蓮池薫先生が6月2日（水）、開学10周年事業の一環として講演を行いました。約280人を収容できる大講義室には立ち見が出るほどの学生、教職員が詰め掛け、注目度の高さが伺えました。

この日の演題は「朝鮮語の表現と世界」で、蓮池先生は朝鮮語と日本語の共通点や相違点をわかりやすく解説、「朝鮮語は英語や中国語と違って語順が（日本語と）同じなので、単語を覚えれば話しが通じる」と朝鮮語が日本人にとって習得しやすい言語であるという反面、「ハングルの発音は難しかった」と自身の北朝鮮での苦労話も語っていました。

蓮池先生には昨年から、月曜と金曜の2回、選択科目である朝鮮語Ⅰを担当していただいています。

平成15年度卒業式・修了式を行いました

第6回工学部卒業式・第4回大学院工学研究科修了式が3月20日（土）本学講堂で行われ、学部・大学院合わせて238名が喜びの日を迎えました。

学科、専攻ごとの内訳は以下のとおりです。

工　学　部		大学院工学研究科	
機械制御システム工学科	55名	●博士前期課程（修士課程）	
情報電子工学科	82名	高度生産システム工学専攻	4名
物質生物システム工学科	42名	自然・社会環境システム工学専攻	10名
建築学科	43名	●博士後期課程	
（工学部合計）	222名	生産開発工学専攻	2名
		（大学院合計）	16名
総　　計	238名		

式辞で丹野学長は「先端技術に関する知識の修得に絶えず励み、人間性豊かな教養人であることを心がけ、広い視野に立って国際人として活躍されることを期待しています」とはなむけの言葉を贈り、卒業生らは神妙な面持ちで聞き入っていました。これに対し情報電子工学科の田村満さんが卒業生を代表して「新潟工科大学で培った知識と弛まぬ努力を忘れず、新たなる可能性を求めて邁進していきます」と力強く述べました。

午後からは、柏崎市民プラザに会場を移して卒業・修了祝賀会が行われました。学友やお世話になった先生とグラスを酌み交わしたり、研究室や学科ごとに写真撮影したりと、終了時間になっても興奮冷めやらぬ様子で、みな名残惜しそうに会場を後にしていきました。

〔関連URL　http://www.niit.ac.jp/news/2003/sotugyo15.htm〕

平成16年度入学式を挙行 ―学部293名、大学院16名―

快晴に恵まれた4月5日（月）、第10回工学部・第6回大学院工学研究科入学式が講堂で挙行され、工学部293名（うち3年次編入学16名）、大学院工学研究科博士前期課程（修士課程）15名、同後期課程1名の合計309名が新たなキャンパスライフをスタートさせました。

入学者の内訳は次のとおりです。

【工　学　部】

機械制御システム工学科	85名（うち3年次編入学9名）
情報電子工学科	80名（　同　4名）
物質生物システム工学科	59名（　同　1名）
建築学科	69名（　同　2名）

【大学院工学研究科】

博士前期課程（修士課程）

高度生産システム工学専攻	9名
自然・社会環境システム工学専攻	6名

博士後期課程

生産開発工学専攻	1名

丹野学長は式辞で「講義の内容を覚えるという受け身の姿勢を捨てて、自ら問題に取り組み、自ら解決に努力することが大切です」と呼びかけました。

ご来賓の祝辞に続き、新入生を代表して情報電子工学科の金子元樹さん（新潟県立燕工業高校出身）から「さまざまな課題や研究に積極的に取り組み、自分なりに納得のいく答えを見つけ、実績を残していきたい」と誓いの言葉が述べられました。また大学院工学研究科の代表・太田明さん（高度生産システム工学専攻・本学機械制御システム工学科卒業）は「研究テーマに没頭するだけではなく、知的好奇心のおもむくまま、自らの可能性を信じ、さまざまな分野を探求していきたい」と抱負を述べました。

―新入部員大募集！―

入学式の前後には、クラブ・サークルの新入部員獲得に向けた売り込み合戦が繰り広げられました。各サークルのメンバーらは、手づくりのチラシを片手に後輩たちへの勧誘活動を展開。

〔関連URL　http://www.niit.ac.jp/news/2004/nyugaku16.htm〕

―学内施設を案内―

午後からは講堂で、ご父母を対象に後援会総会ならびに学長父母懇談会が行われ、大学生活を送るうえでの助言や家族への協力が求められました。また、在学生の様子が大型映像を使って説明されました。

一方、新入生たちは各学科に分かれ、助言教員の案内で学内の施設を見学しました。オープンキャンパス等ですでに学内を熟知している学生も、気分を新たにツアーに参加しました。

スポーツ大会で熱戦を展開

創立10周年事業の幕開けとなるスポーツ大会が5月29日（土）、フットサルと3on3の2種目で熱い戦いを繰り広げました。

例年、工科大祭期間中に実施していたスポーツ大会ですが、今年は大学開放、科学の祭典など盛りだくさんのため、一週間早い開催となりました。両種目とも激しいバトルの末、フットサルは情報電子工学科3年の**ベアナックル**が、3on3はバスケットボール部の3年を中心とする**ぱんだ**がそれぞれ優勝しました。

〔関連URL　http://www.niit.ac.jp/news/2004/sports04.htm〕

平成15年度合同会社説明会

平成17年3月卒業見込みの学生を対象とした合同会社説明会が2月12日（木）と16日（月）の2日間、本学の講堂で行われました。

ご参加いただいた企業は、12日が48社、16日が42社の計90社で、昨年を9社上回りました。ブースで対応にあたった人事担当者からは「（本学の学生は）礼儀正しく好印象」「パンフレットだけでは説明できないものも説明できて有意義だった」との一方、「質問をあらかじめ用意してきてほしい」「元気がない」「自分なりの考えを持ってほしい」という厳しい意見や、「やる気のある人とそうでない学生の差がはっきりしている」などの感想をいただきました。

始めは表情の硬かった学生たちも、人事担当者から説明を受けるうちに次第に「らしさ」を取り戻し、自ら質問するようになりました。お目当ての企業へ一目散と向かう者から、業種にこだわらず幅広く訪問した者などさまざまでしたが、一人あたり4〜5社を訪問した学生が多かったようです。

〔関連URL　http://www.niit.ac.jp/news/2003/godokaisha03.htm〕

平成15年度卒業生就職状況

本学では就職希望者が在学生の8割以上と、他大学と比べて高い傾向にありますが、学生の奮闘により例年どおり内定率も9割を超えています。平成15年度は全業種とも求人数が増加しましたが、主に新潟県以外の企業の求人増加であったため、新潟県就職希望者の学生は苦戦していた模様です。まだまだ景気の低迷は続いていますが、今年度も求人数は増加しており、新潟県内企業も若干ですが増加傾向にあります。地域を選ばなければ希望職種の選択肢は多くありますが、厳選採用が定着してきた昨今、大学在籍時の学業成績はもちろんのこと自分の意志や目的などをしっかりと持った学生でなければ就職はかなり厳しい状況です。

本学ではこれらの対策のため、今年度も自己ＰＲ及びコミュニケーション能力の開発など各種講座やガイダンスを開催し、より効果的・実践的な就職支援を展開していきます。

平成15年度就職状況一覧

1.進路状況

学　科	卒業者数	就　職				進　学				その他
		希望者数	就職者			希望者数	進学者			
			県　内	県　外	合　計		大学院	その他	合　計	
機械制御システム工学科	55	46	41	5	46	6	5	1	6	3
情報電子工学科	82	67	36	22	58	8	5	3	8	7
物質生物システム工学科	48	35	25	10	35	5	5	0	5	8
建築学科	44	34	19	11	30	6	2	4	6	4
合　計	229	182	121	48	169	25	17	8	25	22

※9月卒業を含む

2.求人数

学　科	求人件数	求人数	求人倍率
機械制御システム工学科	895	954	20.7
情報電子工学科	883	899	13.4
物質生物システム工学科	806	808	23.1
建築学科	809	813	23.9
合　計	———	3,474	19.1

3.業種別就職先

業　種	人　数	比　率
製造業	86	50.9%
建設業	23	13.6%
情報通信業	15	8.9%
卸売・小売業	14	8.3%
サービス業	13	7.6%
飲食店・宿泊業	8	4.7%
農　業	3	1.8%
その他	7	4.2%
合　計	169	100%

4.地域別就職先

地域名	人　数	比　率
新潟県	121	71.6%
東京都	13	7.7%
長野県	9	5.3%
愛知県	5	2.9%
埼玉県	4	2.4%
神奈川県	4	2.4%
福島県	3	1.8%
群馬県	3	1.8%
その他	7	4.1%
合　計	169	100%

地域名	人　数	比　率	地域名	人　数	比　率	地域名	人　数	比　率
新潟市	20	16.5%	上越市	6	5.0%	栃尾市	4	3.3%
長岡市	20	16.5%	西蒲原郡	5	4.1%	南魚沼郡	3	2.5%
柏崎市	14	11.6%	三島郡	5	4.1%	南蒲原郡	3	2.5%
三条市	12	9.9%	白根市	5	4.1%	その他	13	10.8%
小千谷市	7	5.8%	新津市	4	3.3%	合　計	121	100%

卒業生の職場を訪ねて⑤

株式会社 高田建築事務所
第１期生 更科智津子さん（建築学科1999年3月卒業）

---------こんにちは、更科さん。今日は忙しい中、時間をとっていただきありがとうございます。お久しぶりですね、卒業して以来ですから6年ぶりですかね？

更科：そうですね。本当にお久しぶりです。大学を卒業してから、もう６年ですか。

---------いろいろと活躍しているみたいですね。建築学科の卒業生から噂は聞いてますよ。今は、どんな仕事をしているんですか？

更科：はい。今は新潟市の高田建築事務所で、主に住宅関係の営業設計を担当しています。

---------住宅の営業設計ですか？営業設計の面白みとは？醍醐味って何ですか？

更科：住宅の営業設計ですから、営業から始まり、顧客のさまざまな要望や意見を吸上げ、住宅設計のエスキスを作成することです。住宅の設計は、家族の空間を作ることであり、家に住まう家族の人生に大きく係わってきます。ですから、住宅はただ単にプランやデザインだけを追求するのではなく「人」を「家族」を預かる容れものづくりだと思っています。そんな家族の巣舞う（住まう）住宅を手掛けていることが、面白さ、まさに醍醐味ですね。そして、営業では多くの人と出会うことができ、多くの人と係わりを持てることが私自身にとっていい経験になってます。

---------すごいですね。大学で学んだことや大学時代に培ったものは役に立ちましたか？

更科：そうですね、学生時代に多くの友人に出会うことで、色々なことを学びましたよ。大学の４年間で、色々な人と出会えたこと、人との出会いが、今の私にとって一番よかったことです。そして何より、ものの見方や考え方、「本物とは何か？」を見極める着眼点を大切にすることを大学で培いました。

---------そうですね。自分にない色々な面を持った人達と出会うことで、人それぞれの見方や考え方について、多くを学ぶことができますからね。大学を卒業し、社会に出た後でも、それは非常に役立っているみたいですね。

---------最後に母校の後輩たち、あるいは大学進学を意識している高校生たちへのメッセージをお願いします。

更科：とにかく大学では大学生活を謳歌し、ゆとりの時間を大切にして、学生時代でしかできないことをたくさん経験してほしいです。もちろん、勉強も大事です。大学で学んだことは社会に出てから役に立つこともあります。でも社会に出ると大学で学んだことだけでは、分からないことも多くありました。実践と大学で学んだことのギャップを埋めていくには、「大学で何をするのか」目的意識を持って、これからの道（未知）を進んでほしいですね。

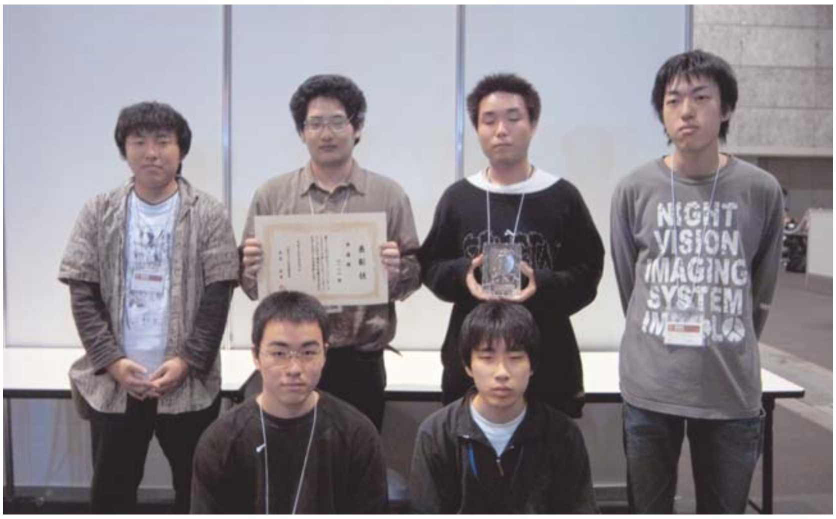
---------どうもありがとうございました。また大学にも来てくださいね。
（聞き手：教務課　木島健太郎）

更科さんは本学建築学科の同級生（第1期生）です。本学を卒業してから6年の月日が経ち、彼女から発せられる言葉からは力強さを、そして第一線で活躍をしている社会人の自信を感じました。

〔高田建築事務所　http://www.takada-arc.com/〕

ロボカップレスキューで準優勝

5月1日から4日に行われた、ロボカップジャパンオープン2004 大阪大会のレスキューロボットリーグにおいて、新潟工科大学のチーム「ＢＬＵＥ」が準優勝しました。以下、参加した学生の感想をお届けします。



「BLUE」のメンバー。後列左から、藤田陽介、久磨　隆、小畑卓也、佐藤拓道、
前列左から、佐藤　仁、小林隆浩、写真以外に、星野　優、須田　暁

ロボカップレスキュージャパンオープン2004大阪で学んだこと

ロボット研究同好会　部長
機械制御システム工学科　3年
小畑　卓也

チーム「ＢＬＵＥ」とは、ロボカップレスキュージャパンオープン2004大阪（以下、ロボカップレスキュー）に参加するために、大金研究室、ロボット研究同好会のメンバーによる共同開発プロジェクトとして去年の秋に発足されたものです。ロボカップレスキューとは、被災地フィールド上にレスキューロボを配置し、制限時間内により多くの被災者に似せたダミー人形（以下、ダミー人形）をレスキューロボが発見して得点を競う競技です。この時、操縦者には現場の情報は一切知らされない状態でレスキューロボを操縦することになります。この大会では、ダミー人形に音声、体熱、体の動作などの機能を取り付けており、操縦者は発見時により詳細にダミー人形の状態を報告、記入することで得られる得点は高くなります。また、レスキューロボが障害物（主に壁）やダミー人形に触れたり、衝突した場合は減点とされ、総合得点はその結果次第で大きく異なります。大会は午前と午後の部の2グループに分かれ、3日間の予選での総合得点により、午前と午後の部のそれぞれ上位2チームが決勝戦に進みます。

競技以外の時は、大会運営委員会の指示や説明の下、フィールドのセッティング、審判、副審判、撮影、編集と、重要な仕事があり、自分達や他の大学生達はただ「参加者」として競技に参加するだけでなく、お互い積極的に協力して大会運営に関わることになります。その中で自分も副審判を担当しました。仕事の内容は、レスキューロボが障害物やダミー人形に触れたかどうかの監視と、操縦者が発見したダミー人形の情報が正しいかどうかのチェックなどです。レスキューロボのカメラの視界外からの監視は大変でしたが、間近で他大学のロボットの動作を見ることができ、とても有意義でした。

この取り組みは去年の秋から半年以上かけて行ってきました。ここに到るまで多くの問題に直面することがありましたが、それを乗り越えられたのも先輩達のアドバイスや、部員各自が技術や知識を得て着実に解決してきたからだと思います。今回の大会出場により、自分達と他の大学の技術や考え方の違いを直接肌で感じることができ、チーム全体にとって結果以上に得られたものは大きかったと思います。自分もロボットに対する視野が広がった感じがしました。

ロボカップレスキューロボットリーグ大会は、日本国内だけでなくUSA、イタリアの国でも過去に大会が行われており、その大会には世界各国のチームが出場参加しています。今年は6月27日～7月5日の間、ポルトガルのリスボンで開催されることになりました。私達もジャパンオープン（大阪）での実績が認められ、大会に出場参加することができました。世界各国のチームに対して何処まで実力が及ぶか分かりませんが、頑張りたいです。

チームリーダー
高度生産システム工学専攻　1年
久磨　　隆

自分が参加したロボカップジャパンオープン2004のレスキューロボットリーグは、地震などの災害が発生したときに、部屋の中を再現した競技場の中に被災者を模した人形を探すと同時に、競技場の状態を調べてその正確さを競う競技です。去年新潟で開催されたロボカップジャパンオープンに出場した経験を反映し、レスキューロボットを学部の卒業研究として開発してきました。今回、そのロボットの性能を確認するためにロボカップに参加しました。製作したロボットの基本的なコンセプトは去年と同じでしたが、ほぼ一から作り直すことになったため、開発は思うように進みませんでした。ロボットが全体として動作したのは大阪に着いてからでした。参加チーム10チームを午前と午後2つに分け、5月1日から3日間の予選を行い、午前・午後それぞれの組の中で得点の多い2チームが4日の決勝で競技を行いました。今回は自分がロボットの操作を行いました。初日はロボットの調整不足と練習不足のため得点がとれませんでしたが、しかし2日目、3日目はロボットの調整を行ったことや、操作に慣れたこと、チームメイトからのアドバイスのおかげで得点を稼ぎ決勝に進むことができました。決勝戦では2位となりました。次は来年大阪で開催される世界大会に向けて、ロボットの構想を練っています。

〔関連URL　http://www.rescuesystem.org/robocuprescue/japan2004〕

日本機械学会北陸信越支部第33回学生員卒業研究発表会に参加してみて

今年の3月15日、本学卒業式の約1週間ほど前に富山大学を会場とし、日本機械学会北陸信越支部第33回学生員卒業研究発表会が行われました。この北陸信越支部学生員卒業研究発表会とは、北陸、信越地区の大学の学部生が卒業研究の成果をそれぞれのセクションに分かれて発表する場で、今回の発表会ではすべてのセクションを合わせて約130テーマほどの発表がありました。私はこの発表会に参加してきたわけですが、やはりとても緊張しました。この発表会の前には本学で卒業研究発表会は行われていましたが、見知った人達の前での発表とは緊張の度合いが違いました。正直逃げようとも思いましたが、私は卒業研究では研究成果はともかく大変苦労しましたし、それだけ真剣にやってきた自信がありました。ですので「自分が何をして、それによって研究がどう進んだのか」を伝えることだけを考えて発表してきました。私が行った卒業研究を簡単に説明すると、一様な流れに十字に交差させた円柱を置いた時、そこからカルマン渦とは違う3次元構造を持つ縦渦が流出します。この縦渦の構造、性質を解析するというものです。この研究は長岡技術科学大と共同で進めており、私は本学の大学院に進学した今もこの研究を継続して行っています。

研究が流体に関するものなので、私の発表は流体に関する研究のセクションで行われました。私が発表する前に何人か他大学の学生が発表をしましたが、それを傍聴する中で気づいた点がありました。まず、発表者が傍聴者の方を見ないことです。多くの発表者が自分のプレゼンテーションが映し出されているスクリーンの方ばかりを向いて、傍聴者に背中を向けて喋っていました。私は他の発表者の研究内容が半分も理解出来ませんでしたが、それは自分の知識が足りず、内容が高度だったということもあるでしょうが、それだけではないと思います。私は傍聴者に伝えたいことがハッキリしていました。先に述べたように自分が何をして、それによって研究がどう進んだのか、それだけです。伝えたいことが決まっているならば、そのために説明しなければならない内容も決まってくるのだと思います。私の前に発表した学生達が傍聴者の質問の答えにつまり、文字通り撃沈していく様を見て気が萎えなかった訳ではありませんが、とにかく自分は伝えたいことを傍聴者の方を向いて喋る、そのことだけを常に頭において発表しました。後日、自分が発表会において学生賞をいただいたと聞いた時、本当に驚きましたが、受賞した理由は上記したことの結果だと思います。

また最後に、随分とものごとを知っているように書いてしまいましたが、発表してみて自分で失敗したと感じたことは沢山ありますし、富山に行って恥をかいてきたのは確かでした。

高度生産システム工学専攻　1年
星野　　優

建築学科、施主も感激の「住宅設計コンペ」開催 !!!
そして、意外な「大学改善提案」に来場者も抱腹絶倒 !!!

「このリビング、ちょっとせまくない？」「それにさぁ、やっぱり2階にもトイレはほしいよねぇ」「これ、県内でしょ。サンルームぐらいなくちゃあ！」…訪れるギャラリーたちの目はやはり厳しい!!! 工科大祭期間中に開催した建築2・3年対象の「住宅設計コンペ」では、情報電子工学科の村上肇先生ご夫妻が所有されている土地、および建物の要求条件をもとに、建築の学生からプランを求めました。100を超える応募作品について先生ご夫妻に一つ一つ厳しく審査いただき、さらにギャラリーからの投票も多数受け付けて入賞作品を決定しました。最優秀賞は建築2年の庄司悠也君の作品。鉛筆デッサンを中心としたプレゼンはまさにプロ並み！この企画、今後も是非続けて行きたいと思っています。さあ、広報誌をご覧の皆様、新築住宅をお考えなら学生のアイディアを募るのはいかがでしょうか。建築学科学生一同、是非とも協力させていただきます（笑）。

♣工科大祭前日、住宅コンペの締め切り前には、製図室に2・3年が入り乱れて図面制作に追われた。「ＣＡＤを使っちゃいけない」というシバリ、かなりきつかった模様（笑）。審査には柏崎でご活躍中の建築家、栗原先生と廣田先生も参加し、「特別賞」の選定に展示会場で激論を交わした。もちろん、情報電子工学科の村上先生も、ご自宅に使えそうなアイディアを１つ１つキチンとチェックされていた。

♣左は、「ゆ巡り館」を栗原先生に説明する、最優秀賞に輝いた新保君。既に館がオープンしたかのようにパンフレットライクな仕上げを行うところなど、余裕が感じられた。そうは言っても皆、卒業生や栗原先生、そして中野先生からのキツーイ質問にはタジタジだったらしい（笑）。

また、3年次ぐらいになってくるといろいろ大学に対して不満もたまる。じゃあ大学をどうしたいの？というわけで建築3年「CAD演習II」で開催したのが「大学改善提案コンペ」。四季を通じた学内お祭りイベントの案、産大との合同サークル棟の提案、そしてゴールデンタイムに放送したいという大学のテレビコマーシャルの絵コンテ案、などの力作・珍作がそろう中で、最優秀賞は新保雅史君らの提案する「ゆ巡り館」。大学敷地内に眺めの良い温泉兼ゲストハウスを計画したもので、CAD図面も本格的。正直、これは一教員として「ほしいなぁ」と思いました（笑）。さらに、建築1年「基礎ゼミI」では昨年に続いて「座るものコンペ」を開催。展示期間中ギャラリーが座って壊してしまったものもありますが（苦笑）、大学で初めて知り合う友人たちとの共同作業という困難にもかかわらず、どれも力作ぞろいでした。

では建築4年は何をやっていたかって？彼らは工科大祭当日の朝まで何週間も泊り込みで「大学模型」の制作にかかりきりでした。スケール200分の1で迫力満点。10周年記念式典の御来賓の方々からは驚きの声があがりました。暗い部屋に運び込み校舎模型全体をライトアップしたときには、思わず涙ぐむ制作メンバーの姿も…。模型は近日中に学内に常設展示予定です。建築4年の製作技術、そしてパワーをひしひしと感じることができるでしょう。来学の際には必見です！（そしてなんと、彼らはそのまま休むことなく、1週間後に開催される卒研の中間発表会の準備になだれ込んだのでした…^^;)

♣「イスコンペ」ではなくて「座るものコンペ」としたところがミソの今回の課題。サメのオブジェ（左下）は子供たちがビビるほどの出来栄えで、さながらTVチャンピオンの「発泡スチロール王決定戦」を彷彿とさせた。最優秀賞は渡邊和己君率いる「オレらナース歴8年」（？）チームの「揺れる診察台」（中央左）。座り心地が意外に良かったと大好評。ぜんぜん入賞対象じゃなかった茶色の断熱材イス（右下）は、ナニゲに筆者のお気に入り。研究室の皆で今も愛用してます（笑）。

♣４年有志による1/200スケールの工科大模型。学内の常設展示を目指した力作だ。天井にピンク色のELシートを張り巡らしてライトアップされた姿は、10周年記念式典の御来賓の方々からも絶賛を受けた。製作中はアイボがみんなを勇気付けてくれたよ！

建築学科　教授　飯野 秋成

〔関連URL　http://www.niit.ac.jp/abehtml/iinolab/index.htm〕

無料スクールバスの運行始まる

4月から高速路線バスのダイヤに合わせた無料乗り継ぎバス（以下「無料スクールバス」）の運行が始まりました。これにより、これまでの大学と新潟駅を結ぶ直行高速バスは廃止となりましたが、多方面から高速バスを利用して大学へ通学してくる学生の利便性を図ることができました。

無料スクールバスは、高速路線バスが柏崎インターチェンジ（以下「柏崎ＩＣ」）と上方停留所に到着する時刻に合わせて運行されており、上越、新潟・長岡の両方面からの高速路線バスに対応しています。午前は1、2限の開始時間に、午後は3～5限の終了時間に合わせ、それぞれ3便運行されています。

この無料スクールバスは、「定期申込利用」のほか、帰省や見学、行楽のために不定期に利用する学生の「スポット利用」も可能となっています。現在の利用状況は1日平均60名前後となっており、大変好評です。近年、「自宅から通学したい、通学させたい」と言う声も多く、本学では今後もより学生や父母のニーズに応えられるよう努力していきたいと思っています。

〔関連URL　http://www.niit.ac.jp/news/2003/tsugakubus.htm〕

平成16年度春の叙勲の受章について

4月29日に発表された平成16年度春の叙勲において、本学名誉学長の阿部武雄先生及び名誉教授（機械制御システム工学科）の齊藤明宏先生が永年に亘る教育に貢献された功績により叙勲されました。

この度の受章は本学にとりましても誠に慶賀なことであり、心よりお祝い申し上げます。　〔関連URL　http://www.niit.ac.jp/news/2004/jokun.htm〕

阿部武雄先生
瑞宝中綬章　受章

齊藤明宏先生
瑞宝小綬章　受章

新任教員のお知らせ

4月1日付けで、新たに2名の先生をお迎えしました。

宮澤 正幸　教授『工学博士』

■ **出身地**：長野県岡谷市
■ **専　門**：情報通信ネットワークアーキテクチャ
■ **研究テーマ**：コミュニティネットワークシステムの研究
■ **経　歴**：信州大学卒。同大学院修士課程修了。日本電信電話公社（現・NTT）、長野県工科短期大学校教授を歴任。
■ **趣　味**：謡曲と仕舞(宝生流)、能管(森田流)、俳句（夏木会員)、絵画
■ **コメント**

この分野の研究・開発に携わって30余年。情報通信技術（IT）が経済活動の基盤として注目される時代を迎えました。しかしながら情報を生活、経済活動の戦略資源として展開するという情報化社会の真の姿は未だ見えません。私は情報（I）とシステム（S）と人間（H）との力の関係がバランスした状態に真の姿があるのではないかと考えています。これから私は人間力（H）強化の立場から、生涯教育までを視野に入れた教育と研究とに貢献したいと思います。よろしくお願い申し上げます。

村山 洋之介　助教授『工学博士』

■ **出身地**：新潟県長岡市
■ **専　門**：材料加工学、材料組織学
■ **研究テーマ**：加工プロセスによる組織制御と材料特性。集合組織制御とその応用
■ **経　歴**：東北大学卒業。同大学院修士課程修了。東北大学助手を経て平成16年本学助教授就任。
■ **趣　味**：テニス
■ **コメント**

種々の加工プロセスにより、材料の組織制御を行い、組織と材料特性との関係を調べ、最適な加工プロセスの確立と、新材料の創製を目指した研究を行っています。いろいろな分野でグローバル化ということが言われていますが、これは、個性化、地域性の重要さが増すということだろうと思います。教育、研究はもちろんですが、少しでも地域に根ざした社会貢献ができるよう努めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

ＢＳＮラジオで地濃副学長の原稿を紹介中

人気長寿番組の「ふるさと散歩」で、地濃茂雄副学長の原稿「住まい玉手箱」が毎週木曜日朝10時40分から、伊藤麻子アナウンサーの朗読により紹介されています。

内容は、住まいや暮らしについての地濃副学長独特の住まい論。「住まいづくりの前に」「自然界に目を」「水は下方に流れる」「民具に学ぶ」「新潟地震から40年」「工夫する融通性」「床の間の意義」などの原稿がすでに紹介され、住まいを求める人や豊かな暮らしを願う人などから高い人気を得ています。

地濃副学長の原稿は、来年3月末までの1年間で52回紹介されますので、ラジオに耳を傾けられてはいかがでしょうか。

平成16年度公開講座

教養講座**「ロシアのお酒『ウォッカ』について：ロシア社会の断面」**
講師：根村　亮　助教授
6月1日～29日（全4回）　柏崎エネルギーホール

教養講座（6月1日）

技術講座・実験編〔前期〕**「お酒に強い？弱い？自分の遺伝子を調べてみよう！」**
講師：小野寺 正幸　助教授、渡邊 壮一　助教授
6月10日～7月1日（全4回）　本学・物質生物第1学生実験室

〈今後の公開講座〉
技術講座・実験編〔後期〕**「遺伝子操作に挑戦しよう！」**
講師：小野寺 正幸　助教授、渡邊 壮一　助教授
9月14日～10月5日（全4回）　本学・物質生物第1学生実験室

技術講座・実験編（6月10日）

技術講座・講義編**「よりよい長寿社会を目指して」**
―県立看護大学との提携プログラム―
9月30日～10月28日（全5回）　本学・Ｓ1大講義室
〔関連URL　http://www.niit.ac.jp/guide/kokai/kokai2004/koukai04.htm〕

オープンキャンパスのご案内

第1回 7月24日（土）　第2回 10月 2日（土）
時間：11：30～15：30
模擬実験体験、入試ガイダンス、学食無料開放、送迎バス運行
送迎バス：第1回　新潟、長岡、直江津、柏崎、高崎、長野
　　　　　第2回　新潟、長岡、直江津、柏崎
〔関連URL　http://www.niit.ac.jp/enter/open_campus/oc2004.htm〕

編集後記

今号も「広報誌出しま～す！」の掛け声に多くの教職員の方々から反応がありまして、規定ページ数では収まりきらないほどの原稿が集まりました。記事をお寄せいただいた皆様、本当にありがとうございました。

今号は、大学祭＆10周年記念式典の報告記事を待ってからの発行でした。開学10年目を迎え、教職員が、そして学生たちが一層活発に活動している様子が多くの記事から読み取れるでしょう。年度内はまだまだイベントが目白押し。なんとなく落ち着かず、つい浮き足立ってしまうことも…こういうときこそ、地に足をつけて日々の授業に向かわなくては、と肝に銘じている今日この頃です。今号の御感想を是非お寄せください。（飯野）

発行

新潟工科大学広報誌　第5号
平成16年7月1日
新潟工科大学広報委員会

新潟工科大学
〒945-1195　新潟県柏崎市藤橋1719
TEL.0257-22-8111（代表）
FAX.0257-22-8112
E-mail:gakusei@adm.niit.ac.jp
URL:http//www.niit.ac.jp